

指定校番号	29005	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	生田 徳廉	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『「みんなの廿小」をもっと魅力ある学校にするための大作戦』

取組のねらい『キーワード：自己存在感・自己有用感を育む』

○児童の主体的な活動を仕組み、本校への所属感や自らの存在感、他者からの有用感を育み、児童にとって楽しい魅力ある学校づくりを進める。

身に付させたい資質・能力

○主体性と課題発見・解決力

取組の具体的内容『キーワード：高学年児童のアイデアを生かす』

- (1) 5年生・6年生全児童対象に、「廿日市小学校をどのような学校にしたいか」「もっと魅力ある学校にするためにはどんなことをしたらよいか」というアイデアを校長名で募集。
- (2) 児童のアイデアから実現可能な8つの取組を選び、委員会などの児童主体の話し合いで進めるものと、教職員が先導して行うものに分けて、児童と一緒に実現していく。

「みんなの廿小」をもっと魅力ある学校にするための大作戦

1	廿小クラスリレー大会をひらこう
2	廿小じゃんけん大会をひらこう
3	廿小にリラックスタイムをつくろう
4	校内に花（植物）をかざろう
5	廿小ゆるキャラをつくろう
6	給食時間に楽しい音楽を流そう
7	トイレトペーパーフォルダーにカバーをつけよう
8	雨の日に教室でトランプ遊びができるようにしよう

委員会が中心になって行った取組は、3・4・5・6・7である。

- 保健委員会
- 保健委員会
- 生活委員会
- 放送委員会
- 保健委員会



を校内に植ろう！



「リラックスタイム」心も体もの～んびり開放してリラックスしたい人集まれ～！

(例)「5 廿小ゆるキャラをつくろう」は、生活委員会主催で、『あいさつキャラクター作り』に取り組んだ。

- ①あいさつ奨励に生かすために、全校児童に『マスコットキャラクター』づくりの応募用紙配付
- ②生活委員会が回収し第1次選考（ベスト9）→最終選考（各学級・教職員で投票）
- ③決まったキャラクターを使ってあいさつを奨励するポスターを生活委員会で作成し掲示
- ④期間を決めて、生活委員会が休憩時間、校内を巡回し、気持ちのよいあいさつをする児童（3レベル以上）に「あいさつありがとうカード」を渡す
- ⑤各自もらった「あいさつありがとうカード」を貼った台紙を生活委員会が回収
- ⑥10枚以上集めた児童に『あいさつの花ちゃん』シールを渡す



生活委員が募集し、皆で決めた廿小のキャラクター「あいさつの花ちゃん」（4年生児童作）



取組の課題・創意工夫『キーワード：さらなる自己肯定感の向上に向けて』

- 高学年児童からアイデアを募集する際、単なる興味本位でアイデアを書くことにならないように、まず、「廿日市小学校がどんな学校になったらよいと思うか」を考えさせた。その後、そのための具体的なアイデアを書かせた。
- アイデア募集に書かれた内容全てをまとめて、各教室に掲示することにより、高学年児童の自己存在感を高める。
- 委員会で話し合っ取組を進める際も、できる限り児童の考えや主体的な活動を尊重する。
- 実現できたことは、全児童に披露し、学校便り等で広く紹介することを通して、機運を盛り上げる。
- 学習発表会の大きな行事終了後も、特に高学年児童に目標や希望もって取り組ませたいという積極的生徒指導の観点から、2学期後半に取組を始めた。

取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』

- 「こんな学校にしたい」は、「①あいさつができる学校 ②仲良く思いやりのあるいじめのない学校 ③明るく笑い声が絶えない学校」と、まとめることができた。そして、廿小をもっと魅力のある学校にするために児童が一生懸命考えたアイデアは全部で72個あり、児童が学校をよりよくしていきたいと願っていることが分かった。
- 願いは実現することができるという体験を通して、学校の主役は自分たちだという意識をもたせた。
- 委員会等で具体的な取組を話し合う際、児童が積極的に意見を出し合い、主体的に活動していた。
- 全学年において、学校は楽しいところだという意識をもち、児童が意欲的に取組に参加している姿が多く見られた。
- 他の取組とも合わせ、自己有用感が高まった。
 - ・昨年度79%→今年度83.8%

今後の展開『キーワード：次年度へつなげる』

- ・今年度、行った取組や内容は、ふり返りをして次年度へつなげる。
「みんなの廿小」をもっと魅力ある学校にするのは自分たちなのだという気持ちを特に高学年児童にもたせ、来年度はどんなことをしていきたいか意識させておく。

他校へのアドバイス『キーワード：全校での取組』

- ・年度当初に、実施時期を検討し、計画的に進めることができると効果的である。全校で協力体制を築き、取り組むことが重要である。